

笑いの力で世の中を明るく

令和5年度 終業式 (12/25) 校長の話

こんにちは。

2学期の最後の日を迎えました。長かった2学期を振り返り、それぞれ反省点やこれからの目標をもつことができましたでしょうか。

2学期の始業式で、私が話したことを覚えているでしょうか。1学期は種を植える時期、2学期はたくさんの養分や水を与えて幹や枝葉を伸ばす時期、そして3学期は実りをつける時期だと申し上げました。どうでしょうか、思った通りの幹や枝葉を伸ばすことができましたでしょうか。

2学期に全校で取り組んだ行事は合唱コンクールでした。どのクラスも一生懸命練習して、素晴らしい感動を届けてくれました。今年は特に、桐朋学園大学の声楽科の皆さんに教えてもらい、合唱のひけつを知ることができました。それによって歌声に磨きがかかり、楽しく歌えたという人も少なくなかったと思います。そして、仲間とともに取り組むことで、自分一人だけでは生まれなかった力が自然とわいてきたことと思います。一つの行事が終わるごとに、自分の中の何かがぐっと成長し、木に例えるなら、太い枝を元気よく伸ばすことができました。2学期は合唱コン以外にも、どの学年もさまざまな体験をしてきました。ここから見ると、皆さん一人一人が、一段とたくましく成長しているのがよく分かります。3学期は、いよいよ実りの学期です。自分なりにゴールのイメージをもって、何かをやりきったと言える学期にしてください。

さて、今年は最後にこんなお話をしたいと思います。日本の神話で、「天の岩戸」の物語です。有名なお話なので知っている人も多いと思います。

昔、日本には、アマテラスオオミカミという太陽の神様がいました。女性の神様です。このアマテラスオオミカミにはスサノオノミコトという弟がいましたが、この神様は大変な乱暴者です。田んぼの畔を切ったり、皮をはいだ血だらけの馬を家の中に放り込んだりと狼藉の限りを尽くします。アマテラスオオミカミはこれを嘆き悲しみ、天の岩戸という洞窟に身を隠し、入り口を大きな岩でふさいでしまいました。太陽の女神が隠れてしまったので、さあ、大変です。世の中は真っ暗闇になってしまいました。食べ物が育たなくなったり、病気になったりと、悪いことが次々と起こります。

そこで大勢の神々は知恵をしぼり、話し合いをして、アメノウズメノミコトという踊りの上手な女性の神様に、天の岩戸の前で踊らせることにしました。アメノウズメノミコトは、それはそれは面白い踊

りを披露したので、見ている神々は思わず大笑いして、手を叩いて大騒ぎとなりました。

さて、天の岩戸に隠れていたアマテラスオオミカミは、表が騒がしいので、不思議に思います。何をやっているのだらうと、少しだけ岩の扉を開けた瞬間、アメノタジカラオノミコトという力持ちの神様が扉を開け放ち、アマテラスオオミカミを外へ連れ出すことに成功しました。そして、再び世の中は光を取り戻し平和が訪れました。

こういうお話です。調べてみますと、太陽の神様が隠れてしまうという神話は世界中にいくつかあっても、この日本の神話のように、人々の笑い声によって再び明るい世の中を取り戻すというお話はないそうです。どうやら日本人は昔から、笑うことによって問題を解決しようとした民族なのかもしれません。笑いには力があるんだ、どんなに絶望的な状況になろうと皆で笑うことで解決できるんだと、このお話は教えてくれているように思えます。笑う、ということには人生の本質に関わるような大きな力が宿っていると思います。

笑う門には福来たる、ということわざもあります。皆さんは今年、どれだけ笑いましたか。これからも、ぜひ、笑うことを忘れないでいてほしいと思います。来年には、お笑いの専門家に来ていただいて、皆で漫才をやるという企画も待っています。大笑いして今年を締めくくり、そして来年も、笑い声が絶えない一年になることを願っています。

私の話は以上です。